

北海道新聞

発行所
北海道新聞社
郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西 3-6
電話 011(221)2111
© 北海道新聞社 2009

速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp
ご購読申し込みは
0120-464-104

道新スポーツ

「旭川先勝を」熱い声援

楽天戦 球音にスタンドわく



走者を背負いながらも力投する八木



元気に始球式のボールを投げる佐藤君

佐藤君(富良野東小)が始球式

パ・リーグ公式戦、北海道日本ハムファイターズ―東北楽天イーグルス旭川2連戦が18日、旭川スタルヒン球場で始まった。今季から2試合となった旭川での日ハム公式戦の初日。2万5000人収容のスタ

ンドは道北のファイターズファンらで埋まり、「まず1勝」と熱い声援を送った。試合は日本ハム・八木、楽天・岩隈が先発、日ハムが一回、高橋の左前打で先制。二回に楽天がセギノールの2ランのファンたちは、お目当ての選手にひととき大きな声援と拍手を送っていた。試合開始に先立ち、寒川恵介君(愛宕東小6年)が日ハム梨田昌孝監督、山田勇斗君(同)が楽天野村克也監督に歓迎の花束を贈呈した。二人は少年野球チーム愛宕東スーパースターズの主将と4番打者。この日は夏休みの最終日で、両監督に花束を手渡した体験は夏休みの最高の思い出になった。始球式では少年野球チーム「東ドンクリーグ」に所属する富良野・東小4年の佐藤伸行君がファイターズのユニホーム姿でマウンドに立ち、力いっぱい投げを見せた。公募の野球作文が最優秀賞に輝いて大役を射止めた佐藤君は、始球式後、「大人になったらファイターズの一員になりたい」と最高の笑顔を見せた。5歳のとき札幌ドームで初めてファイターズの試合を見て、きらきらと輝く選手たちが大好きになったという佐藤君。「ファイターズを見ると元気になって、ファイターズが勝つとすごくうれしくなります」という作文は18日の北海道新聞朝刊で全文が紹介されている。旭川での第二戦も19日午後1時から試合開始。初日に続き、五回裏終了後にグラウンドで地元の子どもたちがマスコットのB・Bやファイターズガールと試合を盛り上げるダンスを披露する。

行(ナ)！ファイターズ

プロのわざを学ぶ



旭川で開かれた高校球児のためのシンポジウムでアドバイスする稲葉外野手(左)

旭川は燃えているぞ



日本ハム戦士夢見て

ちびっこ甲子園ではつらつプレーを見せる野球少年団

「旭川も燃えているぞ」。北海道日本ハムファイターズは18、19日に旭川スタールヒン球場で東北楽天ゴールデンイーグルスと対戦。パ・リーグ優勝奪還と日本一を目指すチームに旭川、上川地方の大勢のファンが熱い声援を送っている。

日本ハムの選手たちは旭川をはじめ道北のマチと強いきずなで結ばれている。昨年12月に開かれた、高校球児のためのシンポジウム(日本高野連などが主催)に稲葉篤紀外野手、建山義紀投手、旭川南高出身の浅沼寿紀投手らが他球団の選手らとともに参加。「家に帰っても素振りをして。いまだにそれをやっている」という稲葉選手の言葉が、た

ファイターズ魂伝える



カレー店「クレイジースパイス」にはヒルマン前監督のユニホームや新庄剛志さんのバットなどが展示されている

ゆまぬ努力の大切さとして

高校生たちの胸に刻まれた。この8月1日に愛別球場(愛別町)で開かれた少年野球の「ちびっこ甲子園大会」でもファイターズOBによる野球教室があった。今年も旭大高が夏の甲子園に出場するなど地元のレベルは全道トップクラス。道民球団ファイターズの試合に注ぐちびっこ選手たちの視線も熱い。

一方、旭川には「ファイターズの魂」を伝える貴重なスポットもある。市内緑

「旭川っ子」に地元のエール



2007年入団の浅沼寿紀投手は旭川南高出身だ

町19丁目のカレー店「クレイジースパイス」(☎0166・55・9014)がそ

れた。ヒルマン前監督の通訳だった球団職員岩本賢一さんが以前、同店でアルバイトをしていたことが縁で、ヒルマン氏や人気者新庄剛志選手が現役時代、しばしば来店。店主の斉藤辰矢さん(45)は学生時代ラグビーの選手。同じスポーツマンとして心が通い合い、ヒルマン氏と新庄さんは自身のユニホームやバットなど用具を店に寄贈。店ではこれらを大切に展示している。

店の内装もアメリカの地方のまちの球場を模しており、日本ハムファンならずとも野球好きなら一度は訪ねたいスポット。斉藤さんは「日本ハムの熱い心を伝える店であり続けたい」と言葉に力を込める。18、19日も大勢のファンが店に集う。